

第3回 現庁舎跡地(周辺)利活用検討分科会、まちなか再生・賑わい波及検討分科会 議事録

日時:令和7年12月11日(木)9:30～

場所:熊本市役所 4F モニター室

参加者:(委員)星野分科会長、国吉分科会長、田中委員(WEB)、藤本委員、吉城委員、山下委員(WEB)

(事務局)庁舎周辺まちづくり課、都市デザイン課

(関係課)市街地整備課、交通企画課

・第3回分科会は審議事項に、熊本市情報公開条例第7条第4項ア(法人等に関する情報)、第6号(審議、検討等に関する情報)に該当する不開示情報が含まれるため、分科会長発議により、「現庁舎跡地(周辺)利活用検討分科会運営要綱」第7条2項及び「まちなか再生・賑わい波及検討分科会運営要綱」第7条2項に基づき、非公開で開催した。

1 開会

2 分科会長挨拶

3 議事

(1)(仮称)庁舎周辺まちづくりプランの骨子案について

(内容)

- ・事務局から骨子案について説明し、“骨子案の構成”などについて議論を行った。
- ・大筋の方向性については合意。今後の庁内照会を経て、検討委員会で示す。

(主なご意見)

【骨子の構成について】

・まちづくりプランの策定を進めて行くには、検討委員会でもご理解いただきながら、さらに発展させたり、揺り戻したりしながら、策定の中の社会情勢変化などにも柔軟に対応していくことが必要。庁舎跡地の計画策定までには相当時間があるし、その間に世の中は相当変わっていくため、まだ見通せないところがある。骨子の段階では、その辺りも柔軟に肉付けできるようにしておきたい。(国吉委員)

・あまり硬めすぎた内容で骨子を公表すると、後から変えられないという印象になってしまう。私は、決めるのは全体の構成だけで、内容には、まだ余白があるほうが良いかと思うが、どのような骨子にするかは、検討委員会にも議題として取り上げた方が良くもしい。(星野委員)

【まちづくりプランについて】

・イメージでも良いので「まちづくりプランが目指すべき姿」を表現する図やパースが欲しい。(田中委員)

・「目指すまちの姿」のようなものがあると良い。「たくさんの物語が生まれるまち」というコンセプトであるため、絵としても何かが生まれている感じを表したい。(星野委員)

・まちづくりプランには、市民等とのキャッチボールをするための叩き台として、具体的なイメージが持てるようなケーススタディなどを記載すると良いかもしれない。(国吉委員)

・まちづくりプランには、上乃裏通りの取組や Street Art-plex のような今動いているものをサポートするような視点を取り入れてほしいと思う。(星野委員)

- ・まちづくりプランには、色々なエリアが、どう連携していくかをしっかり記載する必要がある。(星野委員)
- ・跡地には、下通りや上通り側との繋がりといった視点も重要。(藤本委員、星野委員)
- ・跡地を都市の中でどのように見ていくかという視点が必要である。(藤本委員)

【交通について】

- ・交通関係の計画は広域について検討するので、相対的にまちづくりプランの対象エリアの取扱いは小さくなるが、重要な課題であるので、本検討委員会と交通関係の会議体とが相互に意識しあい、連携して進めていく関係ができるとよいと思う。(星野委員)
- ・今後検討される交通関連の計画と本プランの関係についても掲載した方がわかりやすい。(吉城委員)

4 報告事項

(1)熊本市庁舎整備に関する特別委員会(12/8 開催)等の報告について

(内容)

- ・事務局から、12月8日に開催した熊本市庁舎整備に関する特別委員会、11月14日に開催した検討委員会での主な意見について報告を行った。

(主なご意見)

- ・ご意見を見ると、コンセプトやテーマの中にもっと熊本らしさや独自性のようなものがほしいというニュアンスを感じた。(星野委員)
- ・九州の中における役割や、熊本の立ち位置をもう少し明確にして目標を掲げた方が良いのではないかと。福岡と違う熊本らしさ、九州におけるポジション、他県や海外との関係なども含め、それによって様々な産業や観光につながるイメージを共有した方が良いのではないかと。市民が豊かで文化的に生活するまちが一番素晴らしいと思うが、それだけではない都市としてのポジショニングをもう少し出してほしいという気持ちを感じられる。(国吉委員)

(2)その他

(内容)

- ・事務局から、市民アンケート集計結果について報告を行った。

(主なご意見)

- ・アンケートから、市民の大まかな意向が把握できた。今後、用途を検討するうえで難しいのは、市民が直接使うことを重視するのか、それとも、都市としてのあるべき姿を重視するのか、ということ。単に人が集まればいいのであれば、娯楽施設ということになるだろうが、現庁舎跡地は、そういう場所でもない。(星野委員)
- ・アンケートから、まちが、買い物をきっかけに友達と会ったり、家族で出かけたりするなど、人と一緒になって何かをするという欲求に対する“受け皿”になっているという実態を感じた。素晴らしい。(国吉委員)
- ・アンケートから、地下通路や歩道橋は、あまり使われていないということが分かる。新庁舎分科会としては重要なデータになる。歩道橋やデッキの検討を考えようとしているが、銀座通り歩道橋はあまり使わないという結果になっている。一般的な歩道橋や地下通路の利用状況を、少し相対的に把握する必要があると感じた。(田中委員)